

# テンプス



TEMPUS

2005年(平成17年) **21**号



菅原神社のカクレミノが大阪府天然記念物に指定されました  
貝塚市郷土資料展示室

企画展1「絵図に見る貝塚寺内のうつりかわり」のお知らせ  
特別展「地藏堂丸山古墳と大阪の前期古墳」  
平成17年度展示会のお知らせ

古文書講座

「江戸時代のお葬式」  
次回(第20回)古文書講座開催のお知らせ

市内の古文書調査から

和歌山大学所蔵蕎原村文書

# 菅原神社のカクレミノが 大阪府天然記念物に指定されました



平成17年1月21日付で、「菅原神社のカクレミノ」が大阪府の天然記念物として新たに指定されました。

カクレミノはウコギ科の広葉樹で、大きな葉が蓑(みの)に似ているのが名前の由来です。菅原神社のカクレミノは、梶谷川(きびたにがわ)の上流にあたる大川(おおかわ)左岸の標高204mの地点、菅原神社(貝塚市大川)の本殿が建つ基壇の前面北斜面に位置しています。樹高約14m、目通り幹周(地上から約1.5m高の幹周)1.65mを測り、幹は北東方向へ約60度の傾斜をもって傾いて立っています。樹形は、地上2.5mの所から本殿方向に長く伸びた大きな枝を中心に全体の枝張りも美しく、樹冠が境内を美しく覆っています。

根元には神社本殿の石垣の石材が根に絡まるように散在しており、このカクレミノの成長によって石

垣を崩した状況がうかがわれ、この石垣の崩壊により現状に近い幹の傾斜を持った可能性も考えられます。こうした状況から、植栽された可能性も残りますが、本殿前面の石垣付近に自生した可能性が高く、成長とともに神社と深いかかわりをもって手厚く保護されてきたものと思われる。

開花期には、その蜜や花粉が近辺の昆虫類の重要な餌資源となっているものと見られ、周辺では蝶、ハチ、甲虫類などが多数観察されるほか、その花の量からも樹勢は極めて盛んな状態にあるものと判断できます。

内陸部の山地では非常に珍しく、しかもカクレミノとしては他に類を見ないほど巨木に育ち、個体として学術上極めて貴重な樹木です。

## 大川の菅原神社



祭神は菅原道真(すがわらのみちざね)で、大川の集落のつきあたりに位置します。

『和泉国庄名高寺社地并古城名所記』(いずみのくにしょうみょうだかじしゃちならびにこじょうめいしよき)には、天文5年(1536)に松浦肥前守(まつらひぜんのかみまもる)が建立したと記されますが、それ以外の社歴については明らかではあ

りません。

社殿は一間社春日造(いっけんしゃかすがづくり)という様式で江戸時代後期のものです。本殿前に「天神宮」(てんじんぐう)と刻された石灯籠があります。本殿に隣接して、今で言う社務所にあたる「庁之屋」(ちやうのや)と呼ばれる建物があり、市内では唯一のものです。

# —貝塚市の天然記念物—



菅原神社のカクレミノが大阪府の天然記念物に指定されたことから、市内の天然記念物を紹介します。

いづみかつらぎさん

## 和泉葛城山ブナ林（蕎原）(国指定)

貝塚市蕎原（そぶら）と岸和田市塔原（とのほら）にまたがる和泉葛城山（標高858m）の北斜面に広がる原生林で、岸和田市域と合わせて約8haが国の天然記念物に指定されています。

ブナは、ブナ科の落葉高木で、中部地方以北や日本海側に広く分布していますが、太平洋側ではもともと分布が狭く、1,000m程度の山で見られるのが普通です。ところが和泉葛城山のブナ林は、太平洋側で、位置的にも南限に近く、しかも低い山で見られるなど他地域には見られない条件をもっています。大阪府下でごくわずかに残る自然のままの森としても大切なものです。



ゆきまつ

## 行姿邸のむく（森）(大阪府指定)

江戸時代に森村の村役人を勤めた旧家の庭内に植栽されている樹木で、大阪府の天然記念物に指定されています。むくの木はニレ科に属し、暖温帯地方に広く分布する落葉広葉樹です。高木となり、関東ではケヤキとともに街路樹などによく用いられています。また、葉の表面があらいので、トクサの代用として器物を磨く材料とされます。当家のものは、樹高が約15m、目通り直径（地上から約1.5m高の直径）約80cm、地上より約3mのところできく2本に分かれ、枝は上方によく張っています。樹齢は約300年と推定されています。



そんこうじ

## 尊光寺のカイツカイブキ（中町）(貝塚市指定)

尊光寺（浄土真宗本願寺派）境内に立つ樹木で、本市の天然記念物に指定しています。カイツカイブキは、ヒノキ科ビャクシン属、ビャクシンの変種とされており、東北地方以南の主に海岸部に分布します。当寺のものは、植栽されたものと考えられますが、樹齢は300～400年と推測され、幹の直径は60cmを越えます。手入れが行きとどき、老木としての風格が感じられます。市の木“カイツカイブキ”の代表的なものです。



# 企画展1「絵図に見る貝塚寺内のうつりかわり」のお知らせ

平成17年5月28日(土)から平成17年7月3日(日)にかけて、企画展を開催します。

平成16年7月から貝塚寺内地域の中心寺院である重要文化財願泉寺の本堂他5棟の半解体修理が始まりました(テンプス20号参照)。本展では、願泉寺の所在する貝塚寺内の近世都市としての変遷(17世紀半ば～明治初年)を願泉寺が所蔵する貝塚寺内絵図や願泉寺境内図、各町ごとの切図等をもとに展示紹介します。展示を予定している絵図類については、慶安元(1648)年・元禄9(1696)年・寛政2(1790)年の貝塚寺内絵図や願泉寺境内図以外は初公開のものばかりです。ぜひこの機会にご観覧ください。

また、期間中には、「かいづか歴史文化セミナー」として、下記のとおり講演会を開催いたします。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

## <第70回かいづか歴史文化セミナー>

- ◇日 時：6月12日(日)午後2時～4時
- ◇場 所：貝塚市民図書館2階視聴覚室
- ◇内 容：「寺内町の平面と立体  
-絵図に見えない実態をさぐる-」
- ◇講 師：仁木 宏氏(大阪市立大学助教授)

## <第71回かいづか歴史文化セミナー>

- ◇日 時：6月19日(日)午後2時～4時
- ◇場 所：貝塚市民図書館2階視聴覚室
- ◇内 容：「寺内町と寺・神社・町」
- ◇講 師：藤田 実氏(貝塚寺内町歴史研究会会員)



享保17(1732)年11月付 貝塚ト半境内絵図



吟国関絵図(ざんこくかんえず、境内部分)

## 貝塚寺内の町切図-企画展展示資料より-

貝塚寺内の中心寺院である願泉寺には、貝塚寺内5町のうち北之町と南之町に関する地割を詳細に描いた町切図が残されています。この図は、午の年(おそらく明治3年と思われます)の5～7月にかけて新川東也(にいがわとうや)・並河琢磨(なみかわたくま)ら願泉寺ト半家の家来衆によって作成されたものです。図には、屋敷地一筆ごとに間口と奥行の長さを書き込み、屋敷地の番号と



貝塚寺内町切図(北之町)

その屋敷地の所有者名が記載されています。「町会所」や「御本陣」といった記載もあり、これまで明らかではなかったそれらの施設の位置が判明します。北之町のもは全15枚、南之町のもは全32枚が現存し、一部ではありますが明治初期の貝塚寺内を復元できる重要な史料です。本史料については、上記企画展にて展示いたします。



# 平成16年度特別展「地蔵堂丸山古墳と大阪の前期古墳」



本展は平成17年1月15日(土)より3月19日(土)まで開催しました。地蔵堂丸山古墳は古墳時代前期に築造された貝塚市内唯一の前方後円墳で、昭和31年に国の史跡に指定されています。本展では、平成12～14年度に発掘調査を行なった丸山古墳をはじめ、その南に存在する地蔵堂古墳群や市内の古墳時代の遺跡からの出土遺物を展示紹介しました。また、玉手山9号墳出土の円筒埴輪(えんとうはにわ)(柏原市教育委員会蔵)や摩湯山古墳出土の鱈付(ひれつき)円筒埴輪(大阪府立泉大津高等学校蔵)ほか大阪府下の主要な前期古墳の出土遺物もあわせて展示紹介し、地蔵堂丸山古墳の大阪府下における位置づけを行ないました。市民のみなさんはもちろん、古墳に興味のある多くの方々に市内外からご来室いただき、835名の観覧者数を数えました。



展示期間中には、第68回および第69回かいづか歴史文化セミナーを開催しました。2月27日(日)には本市社会教育課学芸員による埋蔵文化財発掘調査報告会を開催しました。報告会は、新たに2基の円墳(地蔵堂5号墳、6号墳)を確認した平成15年度実施の地蔵堂古墳群の発掘調査報告「地蔵堂遺跡(地蔵堂古墳群)の発掘調査」と平成12～14年度実施の地蔵堂丸山古墳の発掘調査を中心にした報告

「地蔵堂丸山古墳と地蔵堂古墳群」の2本立てで行ないました。

また、3月6日(日)には大阪市立大学助教授の岸本直文氏による記念講演会を開催しました。講演会は「和泉地域の前期古墳を考える」というタイトルで、弥生時代～4世紀後半の和泉地域と和泉地域の前期古墳についてお話しいただきました。

## 平成16年度貝塚市郷土資料展示室特別展図録

# 『地蔵堂丸山古墳と大阪の前期古墳』刊行のお知らせ



上記特別展の展示図録を刊行しました。本書では、展示解説および展示品の全ての図版を掲載しています。

お求めは社会教育課または郷土資料展示室まで

※郵送でのご購入の場合、社会教育課あてに代金(郵便小為替)と送料120円(切手)をお送りください。

A4判24頁 1部300円

# 平成17年度展示会のお知らせ — 貝塚市郷土資料展示室 —

貝塚市郷土資料展示室では、平成17年度も企画展のほか、郷土貝塚に関する展示会を予定しています。内容、日程は以下の通りです。

## ○「貝塚の指定文化財」展

第Ⅰ期：平成17年4月13日(水)

～平成17年5月22日(日)

第Ⅱ期：平成17年7月9日(土)

～平成17年8月28日(日)

第Ⅲ期：平成18年1月7日(土)

～平成18年1月29日(日)

内 容：貝塚市指定文化財の紹介展。考古資料および古文書のほか、パネルにてその他の分野の指定文化財を紹介します。



## ○企画展2「タイムスリップ！いずみの国の弥生時代」

会 期：平成17年9月3日(土)～平成17年10月16日(日)

内 容：貝塚市には近木川流域の石才南遺跡、津田川流域の土生遺跡をはじめ、森下代遺跡、麻生中下代遺跡などの弥生時代の遺跡があります。本展では貝塚市と泉南地域の弥生時代集落と出土遺物を中心に展示紹介し、本市の弥生時代集落の位置づけを行います。

## ○企画展3「貝塚市内の神社とその信仰」（仮称）

会 期：平成17年11月19日(土)～平成17年12月25日(日)

内 容：神社は、日本固有の神々に対する人びとの信仰のよりどころとして各地域に存在します。本展では、貝塚市内に残る各神社の紹介とその所蔵資料をもとに貝塚市における神社信仰の特色を展示紹介します。

## ○特別展「ぼっかんさんの平成大修理

重要文化財願泉寺本堂他5棟半解体修理成果報告Ⅰ-

会 期：平成18年2月4日(土)

～平成18年3月26日(日)

内 容：平成16年7月から始まった重要文化財願泉寺本堂他5棟の半解体修理の現状、修理に伴う各種調査の成果等の展示を紹介します。



築地塀の解体修理（展示では木組を復元します）

※特別展期間中の2月17日(金)～3月1日(水)は市民図書館の整理休館のため休室。

※11月上旬～中旬（2週間程度）には市民図書館による展示を開催。

※上記以外の期間は展示替えのため休室。

# 古文書講座

## ◆「江戸時代のお葬式」

平成17年1月15日(土)から5回にわたり、「江戸時代のお葬式」と題して古文書講座を開催しました。

近年、お葬式は町会館や葬儀場で行われる機会が増加していますが、江戸時代にはもちろんそのような施設はありませんし、お葬式に対してのとらえ方も今とは異なります。

そこで、今回の講座では江戸時代のお葬式の様子、行列や費用に注目し、当時の葬儀記録を解説していきました。

その中では、江戸時代のお通夜、お葬式は一般的に家で執り行われ、その後埋葬あるいは火葬のため住まいのある村(町)の墓地まで移動し、葬るしくみになっていたことや、葬儀当日に出された料理の献立などを現代と対比するなかで見えていきました。

また、自動車のない江戸時代の葬列が、いかにゆっくりでのごそかなものであったのかということを読み取ることができました。特に大きな商家や農家の場合はその葬列が長く、何人もの僧侶の後、松明(たいまつ)・提灯(ちょうちん)・灯籠(とうろう)を持つ人びとと棺が続き、その後ろに親族が続くといった大掛かりなお葬式が執り行われていました。

参加者の方からは、葬儀記録に出てくる「め」が「ひじきのことでは」といったご意見をいただいたり、棺桶(かんおけ)の形についてご質問をいただいたり、様々な声をうかがいました。多くの参加者の方に、当時の社会と現代社会との違いを実感していただいたことと思います。



## ◆次回(第20回) 古文書講座開催のお知らせ

### 「願泉寺と貝塚寺内②—大名との交流と贈答—」

江戸時代において、貝塚名物として珍重された「水粉(みずのこ)」や「干鰹(ほしはも)」などの贈答について、各大名との書状のやりとりなどから読み解いていきます。



願泉寺文書 紀州藩初代頼宣(よりのぶ)からト半(ぼくはん)に宛てた書状

**日 時:** 平成17年8月20日-初心者講習、8月27日-第1回、  
9月3日-第2回、9月10日-第3回、  
9月17日-第4回、いずれも土曜日午後2時~4時30分

**場 所:** 貝塚市民図書館2階視聴覚室

**申 込:** 必要事項(住所、氏名、電話番号)をはがき・E mail・F A X・電話いずれかの方法で、下記まで事前にお願ひします。

### 申込み連絡先

〒597-8585 大阪府貝塚市畠中1-17-1 貝塚市教育委員会 社会教育課  
T E L 0724 (33) 7126 / F A X 0724 (33) 7107  
E mail shakaikyoiuku@city.kaizuka.lg(エル・ジー).jp

# 市内の古文書調査から

教育委員会では、貝塚市に関わる古文書を調査し、歴史をひも解く作業を行っています。ここでは、平成16年度に行った和歌山大学所蔵蕎原（そぶら）村文書を紹介します。

## ◆和歌山大学所蔵蕎原村文書

蕎原という集落は、貝塚市内の山あい西葛城地域にあり、和歌山県と境を接しています。この集落にのこされてきたと考えられる古文書類336点を今回新たに調査しました。

確認された古文書類の時期については、18世紀後半（安永年間）から20世紀初頭（明治の終わり頃）までです。

また、内容については、当時の蕎原村の年貢や租税に関する記録のほか、村内で共同管理していた山林に関するものや、高麗（たかおがみ）（葛城）神社の雨乞いや村々の寄り合いに関するものなどが確認されました。

その中で注目されるものの一つとして、近代教育に早くから着手した地域の人びとの誇りといえる、蕎原小学校に関する記録が挙げられます。主に学校の費用をめぐる史料で、先生の給料や、建物の修繕費、その他さまざまな費用が書き上げられています。開校した明治5（1872）年の翌年には、「第七十五番小学校」と呼ばれていたこともわかります。

これらのことは蕎原小学校が貝塚市内において創立の早い学校の一つとして、地域の人びとによって支えられていたことを示しています。平成10年3月に蕎原小学校はその125年の歴史に幕をおろしました。しかし、明治時代に学校創立に尽力した地域の人びとが持っていた教育への熱い思いが、ひしひしと伝わってくる史料です。

なお、蕎原に伝わる古文書類については、今回調査したもの以外にも、岸和田市教育委員会が所蔵する261点の古文書類があり、相互に補い合う関係にあります。おそらく元々一箇所で保管されていたものが、後世に分割されたものだと考えられます。



## 編集後記

桜の季節もおわり、緑鮮やかな季節になりました。今回紹介した市内の天然記念物以外にも大きな木や珍しい木はたくさんあると思います。散歩に出たら家の近くの木々、草花を見てみてください。あたらしい発見があるかもしれません。緑に親しみ、大切にしていきたいものです。

## かいつか文化財だよりテンプス21号



平成17年4月30日発行  
貝塚市教育委員会  
〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1  
Tel (0724) 33-7126 Fax (0724) 33-7107  
Email : shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp  
印刷 (株)和歌山印刷所  
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。  
年4回発行：各1,000部  
印刷単価：67.20円